

苗場山麓 ジオパーク

Vol.
44

振興協議会だより

〔発行日〕 令和2年8月26日
〔発行〕 苗場山麓ジオパーク推進室
〔お問い合わせ〕 025-765-1600



苗場山麓ジオパーク特産商品認定制度が始まります！（商品開発部会事務局）

苗場山麓は縄文遺跡が物語っているように、古くから生活が営まれており、春夏秋冬季節がはっきりとしています。また、豪雪地帯でもあるこの地域では、豊富な水で育つ米・野菜・山菜など食材の宝庫です。

商品開発部会では、苗場山麓ジオパークの地域産品の開発・仕組みづくりと連携し、情報発信をするための「特産商品認定制度」を立ち上げるため、日本ジオパーク申請段階から検討を重ねてきました。また、平成30年の再認定の際に審査委員からのアドバイスを受け、昨年9月に宮城県の栗駒山麓ジオパークにお邪魔し、特産商品の開発・認定について研修してきました。

栗駒山麓ジオパークでは特産商品を「栗駒山麓のめぐみ」として制度化し、特に歴史・風土・暮らしと文化がどのようにジオパークに関連しているかを表す「ジオストーリー」を重点要素としていることがわかりました。

また、製造事業者自らが地域のために何ができるかを考えており、その熱意を持った民と官が連携して取り組んでいます。

研修を受け、これまでに計画していた特産商品認定要綱を修正したほか、ジオストーリーの作成に重点を置くこと、商品が認定された場合の認定特典として、「認定証＆商品紹介書」・「苗場山麓のたからもの」認定のぼり旗（屋外用（大）・屋内用（小））の進呈を決定したほか、関連配付物（ジオパークだより、ホームページ掲載、パンフレット作成等）、イベント時の紹介を予定しています。

認定の対象となる要件は、苗場山麓ジオパークエリア内で産出・生産され、苗場山麓の地質・地形、気候、生態系、人々の暮らしとの関りを語る「ジオストーリー」の作成を基に、①エリア内で産出・生産された原材料を一部に使用。②地形を真似るなどジオサイトを想起するデザイン。③ジオサイトに関する写真・イラスト名称等を使用。④エリア内で製造されている。この4つのうち2つ以上該当することが必要です。

商品の例としては、地元産のお米や米粉、高原野菜や山菜等を使った商品、これらの加工品等が向いていると思われます。

今秋（10月を予定）に第1回目の認定審査会を開催し、苗場山麓ジオパークの特産商品が認定される予定です。認定期間は2年間となっており、2年おきに更新認定・新規認定審査を行う予定ですが、新規商品の申請につきましては随時受け付けますのでご相談ください。

今後は事業者の皆様と協力し、特産商品認定数を増やしていけるよう取り組む予定です。関係機関・事業所の皆様からは引き続きご協力をお願いします。



認定商品の製造について事業者様からの説明を聴きました



特産認定商品取扱の旗（左）



認定証とジオストーリー紹介



栗駒山麓 GP 認定商品の一例



ユリを飾っておもてなしプロジェクト

苗場山麓の河岸段丘上に拓かれた広大な田畑。その田畑で作られるのはコシヒカリ・ニンジン・アスパラガス・スイートコーン・・・だけではなく。「雪美人」と名づけられたカサブランカ（ユリ）は、「津南のユリは日本一」と言われるほど高く評価され、津南町の主要作物となっています。長い冬には雪に覆われるこの地域ですが、その雪を利用した雪室貯蔵施設が、球根の保管と切り花の出荷前の冷蔵に大活躍しています。ユリの出荷本数は年間120万本、ユリの中で最も高貴とされるカサブランカをはじめとするオリエンタル系の販売額は4億円になります。

そんなユリも、このコロナ禍で売上が落ち、地元旅館組合の女将さん



ユリ栽培現場ツアーの様子

達が生産者の皆さんと一緒に何かできないかと始まったのが、この「ユリを飾っておもてなしプロジェクト」。7月18日～9月20日の期間中、旅館や飲食店でユリを飾ってお客様をお出迎え、ニュー・グリーンピア津南や農と縄文の体験実習館なじょもんでは、フォトジェニックなユリのモニュメントを常設しているほか、ユリの朝市や普段見ることのできない栽培現場ツアーなどを開催しています。

雪のように白いカサブランカ以外にも、黄色、ピンク、赤など栽培されているユリの種類は約60種類。長くなりがちな在宅時間にユリを飾って気分転換してみたいはいかがでしょうか。



旅館の女将さんとユリ生産者の皆さん



十日町看護専門学校でのジオ学習・体験について

令和2年4月、十日町市に十日町看護専門学校が開校しました。この学校は、地域医療を支える人材を育成するために設立されているため、専門的な授業以外にも、地域の歴史文化などを学び、地域住民と交流する内容がカリキュラムに組み込まれています。

その一環として、6月17日に、苗場山麓ジオパークを紹介し、ジオ・エコ・カルチャーに関する講演を行いました。そして、7月1日と3日には、文化の1つとして「アンギン編み」についてスライドを使用した講演会を行いました。アンギンは、苗場山麓に自生するカラムシやアカソ、ミヤマイラクサといった植物の繊維から作られる編み物で、その起源は縄文時代までさかのぼります。鈴木牧之の『秋山記行』にも描かれ、津南町で発見されたアンギン製品は、国の重要文化財に指定されています。講演後は、農と縄文の体験実習館のスタッフによる「カラムシ」を素材としたストラップおよびプレスレットづくりを体験してもらいました。また、「ならんごしの会」が復元したアンギンの袖なしやその他の作品も見てもらいました。



カラムシを作った体験の様子



龍辰峰までトレッキング

6月下旬のとある日、トレッキングコースの現状を確認する為、石坂から龍辰峰までのコースを歩きました。このコースは中津川左岸トレッキングルート的一端であり、将来的にスノーカントリートレイルと結線するための重要な役割を担っています。位置は龍辰峰が石落しの真上あたりになります。石坂集落の「龍辰峰・登山口」の看板がスタート地点です。ルートは整備済みで林道をしばらく歩きます。途中、多少のアップダウンや陰しい所もありますが、森林の木洩れ日を浴び、そこに生育している動植物の観察など、初心者の方も楽しみながら歩けるコースです。コースの所々にピンク色のビニール紐が目印として木に巻いてあるので、迷う事無く龍辰峰（看板が設置）へ辿り着くことが出来ます。

龍辰峰からの素晴らしい眺めを望むと同時に、自然のエネルギーが生み出し作り上げた溶岩の岩壁の上に立ち、太古に思いを馳せました。今後もトレッキングコースの様子を苗場山麓ジオパーク推進室スタッフ目線でお伝えしたいと思います。



龍辰峰からの眺望

認定ジオガイド
が伝える

ここが好きだよジオパーク

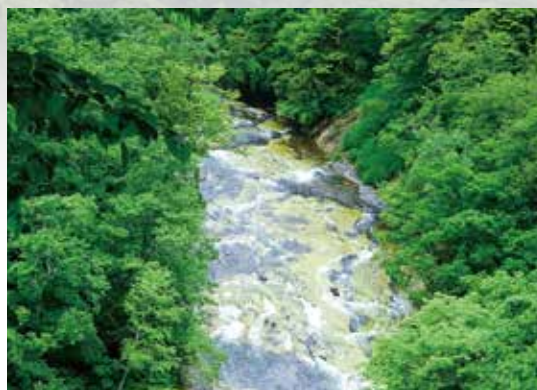
認定ジオガイドがおすすめの場所、
もの、ことなどを紹介していきます。

藤木忠雄さん



日本列島をつくったグリーントフ（ガイド No.19 藤木忠雄）

現世人類の始まりであるホモ・サピエンス（考える人）は約20万年前にアフリカに誕生し、約10万年前に世界各地に拡散していった。ヨーロッパ人（クロマニヨン人）、アフリカ人、東アジア人、オーストラリア先住民などである。また日本列島はというと、今から約2,100万年前に火山活動とともにユーラシア大陸の東縁が陥没し、谷（地溝帯）が形成された。約1,600万年前に谷が拡大するとそこに海が侵入し、海底では引き続き生じた火山活動とともに海が拡大して日本海が形成され、切り離された大地が日本列島の原形となった。日本海の海底で噴出された火山灰が堆積してできた岩石が凝灰岩（tuff）*であり、その後熱や熱水と呼ばれる高温の水の作用により変質して緑色（green）に変わった。つまり緑色凝灰岩＝グリーントフの誕生である。46億年前の地球誕生から現在までを1年間の暦に落とし込むと、地球誕生が1月1日0時、グリーントフ誕生が12月30日17時30分頃、人類（ホモサピエンス）誕生が12月31日23時40分頃、おいおい人類はまだ20分しか経ってないぞ。



グリーントフに輝く雑魚川



三段に流れ下る三段滝

ここで雑魚川を紹介。秋山林道から「奥志賀溪谷コース」と呼ばれる遊歩道があり、大小さまざまな滝やグリーントフの上を流れる川面を眺めながら巡る散策路となっている。入口から下流に向かうと20分ほどで大滝の展望台に。ここは凝灰角礫岩が作る滝で、滝壺に勢いよく叩き落ちる飛沫に度肝を抜かれる。そこから戻り上流に歩を進めるとグリーントフが輝く雑魚川の河床が目に見え込んでくる。黒と緑の異次元なコントラストに他の惑星に迷い込んだ錯覚に陥る。さらに上流に向かうと大岩を巻きながら三段論法的に流れ下る三段の滝がグリーントフと相まって不思議な彩に。その少し上流ではグリーントフの河床に降り立つことができ、古の日本海の海底に想いを馳せる。最後は幅35mをキレイに横直線に流れ落ちるハーモニカ滝、下流は凝灰角礫岩のグリーントフ、上流はマグマが岩の割れ目に入り固まったグリーントフ。まさにグリーントフ三昧の雑魚川である。



グリーントフの河床を流れる清流が古の日本海を奏でる

*【凝灰岩】火山の噴出物のうち、火山灰（粒の大きさが直径2mm未満の物）が堆積してできた岩石。小石程度の大きさの溶岩の欠片や軽石などの礫を含むものは火山礫凝灰岩、さらに粒が大きなものは凝灰角礫岩と呼ばれる。

【訂正とお詫びのお知らせ】

令和2年6月26日発行の振興協議会だより43号に掲載しました「ここが好きだよジオパーク」の記事におきまして、河川名「志久見川上流の北見川」と記載しておりましたが、正しくは「志久見川上流の北野川」となりますので訂正させていただきます。読者の皆様、及び関係者各位にご迷惑お掛けいたしましたことを、深くお詫び申し上げます。



第6回苗場山麓ジオパークフォトコンテスト 作品大募集！

苗場山麓ジオパーク振興協議会では、第6回苗場山麓ジオパークフォトコンテストの作品を募集中です。

部門は「春部門」「夏部門」「秋部門」「冬部門」「暮らし・生活部門」「祭り・伝統部門」「植物・花部門」「学生部門(高校生以下)」です。★応募者本人未発表の作品に限り、1部門につき2作品まで。各作品に解説(200字以内)を付けて下さい。

●画像データでの応募…容量15MB以下で、ファイルサイズ300万画素以上のJPEG形式のものとします。

苗場山麓ジオパーク公式WEB(<https://naeba-geo.org/photocon/>)よりご応募下さい。

●プリント作品での応募…2Lサイズの作品の裏面に、苗場山麓ジオパーク公式WEBサイトから印刷し、記入した応募票を貼付して下さい。作品は、原則返却いたしません。

送付先はこちらまで⇒

〒949-8201

新潟県中魚沼郡津南町大字下船渡乙 835

苗場山麓ジオパーク推進室(農と縄文の体験実習館 なじもん内)
ジオフォトコンテスト係

※プリント作品の返却をご希望の方は、返却先を明記した着払い伝票と返信用封筒を同封し、1点ごとに「返却希望」と朱書きして下さい。

応募締切…2020年12月25日(金)17時(郵送での応募は同日必着)

詳しくは、チラシ、または「苗場山麓ジオパーク」の公式WEBサイト(<https://www.naeba-geo.org/>)をご覧ください。

お問い合わせは、苗場山麓ジオパーク推進室内フォトコンテスト係(電話025-765-1600)まで。

入賞した作品の著作権及び版権は主催者に帰属します。

各ジオサイトの迫力ある景観やそれを楽しむ人の姿、ジオサイトと共に暮らす人の伝統文化、行事、ジオサイトに息づく動物や植物のたくましい姿など素敵な作品をお待ちしています。



突撃しよう!となりのジオ便り～箱根ジオパークからこんにちは～(箱根ジオミュージアム学芸員 山口珠美)



大涌谷の様子

箱根ジオパークは、神奈川県箱根山を中心としたジオパークです。小田原市、南足柄市、箱根町、湯河原町、真鶴町の2市3町からなります。

この辺りは、3つのプレート(フィリピン海プレート、北米プレート、ユーラシアプレート)が接する世界的にも珍しい場所で、箱根山はフィリピン海プレートの北の端に位置しています。箱根ジオパークの南側にはプレート運動によって本州に衝突してきた伊豆半島が、北側には衝突によって隆起した丹沢山地があり、プレート境界のダイナミズムを感じとることのできる場所です。そして文化的にも、箱根を通る東海道は古くから

東と西の文化をつないできました。箱根ジオパークは南北の自然と東西の歴史のみの「交差点」になっています。そんな箱根ジオパークと、苗場山麓ジオパークの共通点を探してみましょう。一つ目の共通点は苗場山と箱根山がどちらも火山であることです。火山は火山でも少し様子が違います。苗場山は、30万年前に溶岩を流したりしながら活動し、その後は侵食が進んできた火山です。一方、箱根山は、40万年前から活動を始め、今でも活動を続けている活火山です。

ジオサイトの一つ「大涌谷」では、2015年6月に、小規模な水蒸気噴火が起きました。大涌谷では、今でも当時できた火口や、もくもくと立ち上る噴気、硫黄の結晶を観察することができ、活火山の息吹を間近に感じることができます。2つ目の共通点は、温泉があることです。津南町と栄村には、塩化物泉や硫黄泉などの泉質がありますが、箱根ジオパークにも、塩化物泉や硫黄泉をはじめ、20種類以上の泉質があり、温泉のデパートとも呼ばれています。箱根温泉の歴史は古く、奈良時代の開湯と伝えられ、鎌倉時代には武将たちの湯治記録も残されています。江戸時代初期には七つの温泉場が確認され、箱根七湯と総称されました。当初湯治利用が一般的でしたが、江戸時代後期からは温泉観光地としても知られるようになり、明治時代以降は温泉技術の発達とともに開発が進み、現在では箱根二十湯を数えるまでになっています。火山であること、温泉があることの他にも共通点があるかもしれませんね。これらの共通点も、その違いを知って楽しむと苗場山麓の魅力に改めて気付くこともあるかもしれません。箱根ジオパークは、津南町や栄村から南へ180kmほどのところ。皆さんぜひ、遊びにきてくださいね。

